

豊能町総合まちづくり計画審議会（第1回）議事概要

日 時：令和2年8月26日（水）午前10時～午後0時05分

場 所：豊能町役場2階 第1・2会議室

出席者：委員14名、事務局6名

傍聴者：3名

1. 町長あいさつ及び委嘱状交付

塩川町長より審議会開催にあたり挨拶があった。委嘱状は机上へ配布済み。

2. 委員紹介

事務局より委員及び出席者の紹介があった。

3. 会長・副会長の選出について

「事務局一任」との意見があり、会長を濱田委員、副会長を足立委員にお願いした。

4. 諮問

塩川町長より総合まちづくり計画の策定について審議会の意見を求めた。

5. 《議事》総合まちづくり計画策定の流れ

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

- ①「総合まちづくり計画」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との一体化について

(2) 主な質疑、意見

〔委員〕総合計画と総合戦略を一体化するということであれば、前回の総合戦略で決めたものがどうなっているか、この審議会で議論する必要がある。

〔副会長〕従来の総合計画が10年のスパンで、ある一定の方向性を持っている。それに対し、総合戦略は5年で具体的な事業内容を議論してきた。一体化のメリットを最大限生かすには、成功した部分や難しかった部分を明確にしておいた方がいい。

(事務局) まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会に報告をしている内容を、次の審議

会で報告したい。

6. 《議事》 住民意識調査結果報告について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

- ①豊能町総合まちづくり計画住民意識調査結果報告書
- ②住民意識調査 施策満足度・重要度散布図

(2) 主な質疑、意見

[委員] アンケートのクロス集計では、東地区と西地区を分けて考える形になっているが、旧村と新興住宅地で集計を分けられないか。

[副会長] アンケートは、高齢者で、在宅の方の回答が主に出てきているであろうということ、共通理解として持っておいた方がいい。アンケート結果を踏まえ、交通手段や利便性を重視した考えが必要ではないかと説明にあったと思うが、西部地域の割と高齢で、仕事をしていなくて、家にいる方々の意見を踏まえた上での見解とあってよいのか。

[委員] アンケートを見ても全体像がつかみにくい。豊能町に限ったことではないが、高齢者の意見が通ってしまう町にならないようにしないといけない。

[委員] 西地区、東地区、旧村、新興住宅地があり、商業用地、工業用地、農業なども二つに分かれる。歴史的、地理的な問題もあり、二極化になるかもわからないが、そう言ったことも踏まえてまちづくりの総合計画を作っていくと町全体が成り立たない。町として二極あっても、特化するのではなく、二極で認め合いながら、まちづくりをしていくといけないのかと、アンケートを見て思った。

[委員] この町をどうしていきたいかが大切である。アンケート調査で出ている傾向を細かく分析することは必要だと思うが、全体的な傾向は掴めたのではないか。この町をどうしていくか、データや調査結果を活用していけばいいと思う。

[委員] やはり、実際に住んでいて一番困っているのは交通。アンケート結果にも出ており、データを見て、色々なことを考えていくことは大事であり、今住んでいる人たちの意思を汲み進めていく姿勢は大事である。

[会長] 住民意識を調べると、こういう意見が圧倒的に多く、偏った意見になる。町民には、移ってきた時のそれぞれの思いはあるが、それは移ってきた時期によっても違う。大事なものは、移ってきた状況と今は違い、未来に向けて豊能町の新しい価値を作っていくかなければならないこと。現時点では、住民意識調査をベースに物事を考えていき、皆さんにテーマを出してもらい、分析し

て積み上げていく。

(事務局) アンケートの旧村・新興住宅地で分けた集計データはあるので、資料として出すことは可能だが、全部となると大量になる。ある程度こちらで精査し、必要な部分を提示させてもらいたい。

7. 《議事》将来像（キャッチコピー）について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

①計画の将来像（案）について

(2) 主な質疑、意見

[委員] 計画になったとき、町民に説明するには非常に重要なのはわかるが、我々の審議会の中でもう少し方向性を定めてから、キャッチコピーが出てきてもいいかなと思った。

[会長] キャッチコピーはその計画の方針を定めるもの。その文言を決めるのは最終的な段階で、どちらかというは今決める問題ではないと考える。それよりさらに大事なのは、豊能町は何を作っているかという問いに、どう答えられるか。例えば、人とみどりが輝くまちを作っていると言っても、それはどのようなものと聞かれた時に、町民は誰も答えられないということになる。そのため、みんなで議論していかないといけない。

[委員] 第1回のこの時に、将来像の2つの案を1つに絞るのは、はっきり言って疑問。特に今日説明があった住民アンケートは、今住んでいる人が何を考えているかを調査したもの。アンケートだけで将来像の案を決めるには、若干無理があるのでは。

(事務局) キャッチコピーについては、次回等ではなく、もう少し内容等が固まってから、再度考えていただくことにさせてもらおう。

[会長] 次回に向けてこんなことを議論したい、そのための資料があれば、ということがあれば。

[委員] 今までの反省点、こんなことが問題でステップアップできなかったという大きな問題点を検証しなければ、何も前に進まない。

[委員] 総合まちづくり計画というのは、10年間という形で進めようとしていますが、それでいいのか。10年は目先。持続可能ではなく、次世代に残すまちはどうあるべきなのか考えないと、まち自体が消滅するのではないかと思う。目先のこと、将来のことの二つを併せ持って、進めていくべきではないか。

[委員] 豊能町の人口推移は推計通りに減少している。あと50年、60年先のことは考えられない。とりあえず10年、15年の間に人口を何とかしなければ。だから先のことは考えられない。

〔委員〕人口減はものすごく切実、切迫で、人口消滅に向け確実に歩んでいる。この人口減少をどうするのか、何らかの答えを総合まちづくり計画の中に盛り込むことが、一番重要と思っている。

〔委員〕人口減少は本当に切実な問題であるが、ある程度少なくなるのは仕方がないと考えている。課題として一番感じているのは、空間、場所の問題。住宅地なら空き家等が増えている。農地や山でも、相続の関係で誰の所有か分からないという話を聞く。そのことで世の中が滞っていることがある。

〔委員〕町の目指す姿は、今まで何度も聞いている。理想論なら何でも言える。いくら努力しても人口のカーブが下がるのは、今までやってきたことにあまり効果が出ていないということ。理想論はいいが、裏付けがとれない。

〔会長〕人口を増やすのは簡単な問題ではない。教育にもお金がかかる。子どもを育てるのには所得が必要。難しい所もあるので、人口を増やす選択は微妙。とはいえ努力は大切で、ヨーロッパには人口が少なくても、中心地があり活気のあるまちがいっぱいある。豊能町は東と西に町が分かれている。そういった中で、人口が少なくなっても楽しいまちになるか、考えていくことが大事。それから、まちの将来像を通して、同時に人の幸せ、元気な生活が送れるまちとして、こんな例があると伝えられることがあればよいと思う。何でもあるという話はない。ない中にもこれはある、といったことが大事。

8. その他

〔会長〕次回はぜひ皆さんに、豊能町の今後のまちづくりの目標のようなもの、手段として具体的に取組んだらいいと思うことなどを考えていただいて、意見を交わしていきたいと思う。

（事務局）次回は11月19日（木）午後2時から4時半を予定。

9. 閉会

（1）午後0時05分に閉会した。

本議事録にかかる会長の内容確認・署名

本議事録について議事内容と相違ないことを確認する。

豊能町総合まちづくり計画審議会会長